

二〇一〇年十二月 山陰研究 第三号 抜刷
島根大学法文学部 山陰研究センター

初代松江市長・福岡世徳文書（六）

福岡世徳文書研究会

初代松江市長・福岡世徳文書（六）

福岡世徳文書研究会

（竹永三男・沼本龍・大國由美子・
小林奈緒子・本井優太郎）

【解説】

本誌前号に続いて今回翻刻する史料は、一八八九年に市制を施行した松江市の初代市長に就任し、一九一一年まで四期、足かけ二三年にわたって同市長を務めた福岡世徳が、出張・公務従事の際に常時携帯し、旅程・旅費・出張先での用務内容や出張途次の見聞を詳細に記録した「公務手帳」（松江市北堀町・福岡家所蔵。一二冊が伝存）の第五冊・第六冊である。前号「解説」でも述べたように、「福岡世徳文書」と「公務手帳」の史料的意義については、本誌第一号掲載の「初代松江市長・福岡世徳文書（四）」の「解説」に譲り、ここでは、今回翻刻する第五冊・第六冊に書き留められた、一九〇一年と一九〇三年の記事について、その概要を記す。

〔「公務手帳」第五冊〕

今回翻刻する二冊の「公務手帳」の中、第五冊には六回の旅（出張）の記録が載せられている（表1）。

①一九〇一年（明治三四）一月一日〜三月二七日の東京市への旅
記事冒頭には、六九人の人物の住所・氏名が列記されているが、そ

【表1】福岡世徳「公務手帳」第五冊所収の市長の旅

旅行年	旅行期間	行先	目的
1901年 (明治34)	1月18日～3月27日	東京市	鉄道速成事件につき 上京*
	4月22日～4月23日	鳥取県東伯郡 倉吉町	小松宮彰仁帰松につき 出迎え
	4月25日～4月26日	島根県簸川郡 杵築町	小松宮彰仁見送り
	5月11日～5月22日	三重県津市・ 大阪市	関西各市協議会出席(津市) 中橋徳五郎と馬湯浚渫の件 相談(大阪市)
	7月5日～7月15日	島根県那賀郡 浜田町	凱旋軍隊歓迎会・招魂祭出席
	9月12日 ～9月20日*	島根県那賀郡 浜田町	招魂祭出席

* 「備忘録」による

の内容は、鳥根県関係の政治家・名望家議員などのほか、松田正久ら立憲政友会幹部・党員、若槻礼次郎・岸清一ら在京の鳥根県出身有力者が中心で、この出張での福岡世徳市長の訪問予定先、即ち活動目的が示唆されている。「備忘録」によれば、この出張の目的は「鉄道速成事件」とあるが、その活動内容自体は、日々の記事がないため不明である。その一方、記事末尾に記された「東京市所感」と題する一項目の覚書から、都市の衛生行政、教育行政を中心に、この旅の中で市長が視察・見聞した都市行政課題の内容を知ることができる。また、往路の岡山県坪井の宿では「鳥取県代議士西谷金藏氏来ル 同宿ス」とされている（西谷は鳥取県郡部選出の立憲政友会代議士、実業家）。なお、この出張は、六九日間という長期にわたるものであることも注目される。

②一九〇一年四月二日～二三日、二五日～二六日の鳥取県倉吉町、

鳥根県杵築町への旅

小松宮彰仁親王の行啓に際し、これを倉吉に赴いて出迎え、松江滞在後は、杵築まで見送った旅である。慌ただししい日程であったが、出迎えに際しては、一旦倉吉まで出かけてここで小松宮宿舎に「伺候」した後、翌日改めて米子で出迎えて松江まで同行している。皇族の送迎の方法を確認することができる記事である。

③一九〇一年五月一日～二二日の三重県津市・大阪市への旅

今日の全国市長会の前身である関西各市協議会が津市で開催された際、同会に出席のため出張した記録である。そこには、会議を担当した津市の応対の様子が極めて具体的に記述しているほか、伊勢神宮参拝の記録も書きとめている。帰途、福岡世徳は、大阪市中橋徳五郎（通信官僚から大阪商船会社社長に転じていた。後、代議士、原敬内閣

の文部大臣など歴任）と会談し「馬淵疏浚ノ事ヲ談シ」ている。往路では、鳥取県板井原に至る「途中鉄道報告付心付き」として政府宛の建議書の記載内容について記していることも、当面する市政の課題への取り組みとして注目される。

④一九〇一年七月五日～一五日の鳥根県浜田町への旅

陸軍歩兵第二十一聯隊の帰還歓迎と招魂祭に出席するため、浜田に出張した旅の記録である。陸軍聯隊関係者多数との面会や式典出席という多忙な用務の合間をぬって、高等女学校や監獄の視察を行っている市長の、都市行政に対する精力的な取り組みぶりが見て取れる。

⑤一九〇一年九月二日～二〇日の鳥根県浜田町への旅

陸軍歩兵第二十一聯隊の招魂祭出席のため、再び浜田町に出張した記録である。自由党系の自由民権運動に参加して以来、その政治的立場を一貫させてきた福岡世徳は、立憲政友会創立の翌一九〇一年、同会鳥根県支部の創立にも参加していたが、その準備過程に関する記事も見られる。

〔「公務手帳」第六冊〕

以上「公務手帳」第五冊には、松江市長としての通常の用務が多面的に記されているが、続いて翻刻する「公務手帳」第六冊には、一九〇三年に大阪府で開催された「第五回内国勸業博覧会」の詳細な視察記事と、同年、第一次桂太郎内閣による府県廃合計画が伝えられた際の上京活動記事の二件のみが記されている（表2）。

①一九〇三年（明治三六）四月六日～一八日の大阪市への旅

第五回内国勸業博覧会の歴史的研究としては、松田京子『帝国の視線 博覧会と異文化表象』（吉川弘文館、二〇〇三年）がある。同書で

月八日から一四日に至る七日間にも及び「表3」、「公務手帳」には各種展示の詳細と市長自身の観察・批評が記述されているが、「学術人類館」については、視察初日の八日に、「人類館ヲ観ル 印度人 阿弗利加人 北海道アイヌ等アリ」という簡単な記述があるだけであって、「公務手帳」の視察記のほとんどは、島根県の出席内容の紹介と、他府県の出展と比較しての批評記事である。松江市の振興策の策定・実施

【表2】福岡世徳「公務手帳」第六冊所収の市長の旅

旅行年	旅行期間	行先	目的
1903年 (明治36)	4月6日～4月18日	大阪市	第5回内国勸業博覧会視察
	9月17日～10月9日	東京市	第一次桂太郎内閣の府県廃合計画につき情報収集・陳情①

注:① この上京活動の一部始終は、福岡世徳『明治三十六年九月 在京日記』(竹永三男・島根大学法文部近現代史ゼミナール「初代松江市長・福岡世徳文書(一)」『山陰地域研究(伝統文化)』第6号、1990年に全文翻刻)に記録があり、その詳細な分析は、竹永三男「第一次桂太郎内閣下の府県廃合計画と福岡世徳・松江市長の上京活動」『松江市史研究』第1号、2010年で行っている。

松田氏は、この博覧会が世紀転換期に開催されたという時代性に着目し、「文化」を表象することの政治性を問い直し、「国民意識」と「帝国意識」の不即不離の関係とその在り方を究明するという方法的意味をもつ「場」として、この博覧会の「台湾館」「学術人類館」とその「展示」に詳細な分析を加えている。この博覧会で設けられた、「生身」の人間を展示する「学術人類館」に対しては、在日清国人留学生をはじめとして、アジア諸国と沖縄から抗議・非難が寄せられた（「人類館事件」）。福岡世徳市長が「公務手帳」に記録したのが、この博覧会であった。

福岡世徳の博覧会視察は、四

に市長として全精力を注いだ市長の関心は、文字通り「勸業」の実際の研究にあったことが知られる。
② 一九〇三年（明治三六）九月一七日～一〇月九日の東京市への旅
一九〇三年、第一次桂太郎内閣は、行財政整理の一環として府県の統廃合を計画した。この情報が伝えられると、福岡世徳は、早速上京し、松江藩主家当主の松平直亮伯爵や、政府要路、立憲政友会関係者、在京の島根県出身者を精力的に訪ね、情報収集と陳情活動を行った。今回翻刻した「公務手帳」には往復の旅程のみが記されている。島根県の存廃の行方、それと関わって特に松江市にある「県庁」が存続するか否かに極度の神経をとがらせていた市長の上京活動の詳細な記録は、福岡世徳の「明治三十六年九月 在京

【表3】福岡世徳市長の第五回内国勸業博覧会視察日程（1903年4月）

日	見学施設等
8日	会場各館、島根県売店、人類館
9日	島根県事務所、工業館、植物園、農業館、水産館、売店
10日	会場、美術館、林業別館
11日	売店、会場
12日	松平子爵と面会、農業館、水産館、各府県売店
13日	売店、造幣局泉布館、水道水源地、高津神社、四天王寺、実業補習学校視察
14日	堺水族館、妙国寺蘇鉄、参考館
15日	島根県事務所（帰松挨拶）

出典：福岡世徳「公務手帳」第六冊による。

日記」に残されている。この史料は既に翻刻・発表しており（竹永三男・島根大学法文学部近現代史ゼミナール「初代松江市長・福岡世徳文書（一）」『山陰地域研究（伝統文化）』第六号、一九九〇年）、その記事を中心とし、関連史料にも基づいた分析を行っているので（竹永三男「第一次桂太郎内閣下の府県廃合計画と福岡世徳」松江市長の上京活動『松江市史研究』一号、二〇一〇年）、参照していただきたい。

なお、手帳の記載は、文字どおりの走り書き、薄い鉛筆書きなどの読みづらい箇所がある。翻刻に際しては、研究会同人の沼本龍・大國由美子（法文学部歴史学教室卒業）が解読したものを、研究会の場で読み合わせて検討し、当面の確定版を作成した。（竹永三男）

〔凡例〕

- 一 漢字は原文どおりとした。
- 二 合体字はカタカナ書きとした。
- 三 原文にない句読点は付さず、判読しやすいように一字空けとした。
- 四 不明文字・判読不能文字は、字数に従い、□□、□□としたり。本冊は、鉛筆による走り書きの部分が多く、加えて用紙が変色しているため、判読不明文字が多くなった。
- 五 抹消文字は二重抹消線で示し、訂正文字を原文に従い左右に記した。
- 六 文字サイズは同一とし、割注のみ小さくした。
- 七 別表に掲げた各回の出張を明示するため、翻刻者によって当該箇所を《》を付した小見出しを設けた。
- 八 文字群を実線で囲んである箇所は、そのまま文字囲みで示した。

九 単純な計算式を記載した部分は、判読不明箇所が多いこともあり、翻刻せず〔計算式あり〕とのみ記した。

一〇 原文の改行は、特に必要と認められた場合以外は追いつ込みとした。

一一 第六冊の記事には、日々の経費が縦書手帳に横書で記されている部分がある。これらの記事については、分かり易いように罫線を補って当該箇所記した。

〔付記〕

本稿は、島根大学法文学部山陰研究センターの二〇一〇年度山陰研究プロジェクト「初代松江市長・福岡世徳文書の解読・翻刻・研究と『初代松江市長・福岡世徳―史料と研究』（仮題）の刊行」（課題番号〇八〇三。研究代表者・竹永三男）の成果の一部である。

（表紙）

〔明治三十四年 手帳 第五冊〕

- ・表紙「明治三十四年」
- ・タテ 一〇cm
- ・ヨコ 七・八cm
- ・本文 八八ページ（ページ欠落有り）

杵築村大字田野原 右田
芝南佐久間町東奥館

一円正□

二千三百四十八

烏森筑波館

麻布我善坊町十番 西山志澄

《一九〇一年(明治三四)・東京市出張》

卅四年一月十八日出発東京行

麴町區一番丁四十二番地 今村長賀

麴町區五番町二番地 伊藤大八

麴町區五番町十八番地 石塚重平

麴町區下六番町四十五番 波多野安久里

牛込筆筒町四十四番 原田越城

麴町八丁目二番地小林方 花房正治

麴町三番町十番地 西保豊一

京橋區築地三丁目金水館 星野甚右衛門

下谷區上野黒門町十七番 本阿弥成善

小石川區餌差町三十二番 本阿弥親善

麻布材木町三十八番 戸田忠幸

本所押上町百十七番 太田德基

麴町區富士見町五丁目七番地 大浦兼武

南豊島郡千駄ヶ谷村六百四十四 落合豊三郎

神田豎大工町廿二番市村方 小原善平

本所表町四十六番 渡部和光

牛込矢来町八 若槻礼次郎

永田町二丁目廿八番 河野廣中
赤坂榎坂町五番 門脇重雄

花園町十丁目五十番

平河町一丁目十三 谷清瀬

牛込矢来町八番地十一号 高橋鎌次郎

牛込北町九番 武熊長秋

四ツ谷愛住町 玉井清水

麴町中六番町十二番 曾我部道夫

神田三崎町三丁目一番 恒松隆慶

京橋區木挽町二丁目水明館 並河理二郎

小石川區江戸川町五番地 梅謙次郎

京橋區西紺屋町二十 鶴飼猛

元園町二丁目十二番 桑谷武一郎

牛込拂方 九

小石川表町十番 山口宗義

駿河臺北甲賀町五番 山田恒太郎

麴町區一番町廿七 山上義雄

牛込市ヶ谷加賀町二丁目廿一 松平直平

麴町區永田町二丁目七番 松本正友

芝西久保神谷町十八番 松田正久

四谷荒木町二十七 藤坂松太郎

京橋區木挽町二丁目十四厚生館 寺崎至

小石川久豎町七十四番 青山武一郎

日本橋區上槓町廿一 ^{マキ}朝倉外茂鉄

永田町二丁目七番 櫻井三郎右衛門
四谷仲ノ町三丁目三十二番 佐々友房
本郷駒込追分町三十番 斎藤巳三郎
芝公園第十五号 加賀町一番 岸清一
土手三番町十一 北尾漸一郎
下谷下根岸町三十一番 椎野正次郎
赤坂高樹町一二 志立範蔵
赤坂溜池二番 重野謙次郎
麴町區紀尾井町三 下村房次郎
横濱宮崎町五番 樋口久吉
小石川久堅町三十四 持田直澄
本郷區森川町十七 鈴木信勝
赤坂仲ノ町十一 篠崎五郎
芝烏森町五番 川島軍之丞
赤坂新町三丁目卅七 櫻井駿
麻布三河臺町十四 桑原羊次郎
岐阜縣大垣 磯貝静蔵
牛込築土八幡町廿六番 法令索引大全 川口操
京橋南紺屋町賣讀新聞社後 吉田弁護士
井上園了著 中等女子子修身書 巷田廿五銭
日本橋通旅籠町 株式会社集英堂
麻布仲ノ丁九番地 望月右内
共立女子職業学校 神田一ツ橋
鉄道作業局長代理 平井某
神田連雀町十八番佐々木利助方 河野忠三

日本橋區通り二丁目十四番丸六支店 電話八百七十八 右田古文
神田西小川町一丁目十一番 渡部龍一郎
赤坂臺町七十七番 西覚
木挽一丁目亀井橋ノ前加藤靴店 松代正典
第一理科第二文科 此別ハ何レニテモ
牛込若宮町廿七番 福島仲之助
普通学務局長 柳澤政太郎
電話 番町七百三十四番 松平子爵
日本橋區本銀町四丁目九番 本局五百十七 法律新聞社
二番地 新橋二千十九番 石谷
明治三十四年一月十八日 雪天
午前七時半松江出帆 十時前米子着 船四ノ宮ニテ休憩 十時二十分
發 零時四十分溝口へ着 住田宗一方ニテ昼飯 一時廿五分溝口ヲ發
ス 雪歇ミ三時過ヨリ日光漏射稍温ヲ覺フ 六時板井原ニ着 鉄問屋
二宿ス コテツヤ千代
十九日 半晴
午前七時二十分板井原發 午後一時四十分勝山ニ着 岸屋ニテ午飯
二時廿五分勝山發 同五時坪井着 河田屋二宿ス 七時鳥取県代議士西
谷金藏氏來ル 同宿ス
廿日 半晴
午前四時五十分坪井發 六時廿五分津山着 山長ニ於テ小憩 七時全
所發 九時十五分岡山ニ着 木村旅店ニ投ス 午飯ヲ喫ス 午後一時
廿六分岡山發 四時五十分神戸着 吉田旅店ニ投ス 夕飯ヲ喫ス 此

日午前ハ頗ル寒冷ナリシカ岡山ヲ發シテヨリ稍温暖ヲ覺フ 午後六時
神戸ヲ發ス

廿一日 雨天

午前十時三十八分新橋着車

改正刑理由書 四十錢 神田裏神保町六番地 濟実館書店

麻布新籠土町十二番 小倉寛一郎

四ツ谷区内藤町壱番地 森友次郎妹

石黒 野間 高岡 □□野 重野 北 濱野 降旗 中津

〔計算式あり〕

一金貳百〇九圓七十五錢 受取

一金九十四圓三十八錢 東京ニ於テ受取

十八日

一貳拾壹錢五厘 米子迄舟賃 米子棒持先代

同

一拾五錢 溝口昼飯

同

一拾五錢 五十錢ハ溝口
五錢ハ米子 茶代

同

一壹円四拾錢 車賃四円ノ内渡ス

一三十五錢 宿料

一三十五錢 □糶

一貳拾五錢 茶代

一貳円五十錢五厘

十九日

一五十錢 車夫渡

一貳錢五厘 わらじつまご

一八錢 両所茶代

一三十錢 車鼻引賃

一二十錢 昼飯

一二十錢 茶代

一四拾錢 宿料

一貳拾五錢 茶代

一金貳錢五厘 みかん

一壹円九十八錢

廿日

一貳円拾錢 人力車代四円ノ内

一拾五錢 津山小憩茶代

一七拾八錢 津山ヨリ岡山マテキ車賃

一貳拾八錢 岡山昼飯

一五錢 中国ステーションヨリ車賃

一貳拾錢 茶代内 五錢下女

一三十五錢 神戸夕飯

三

一貳拾錢 茶代 内十錢下女

一三十三錢 車中入用

計四円五十四錢

廿一日

一三十二錢 宿込車賃

一貳拾錢 安着電報

一壹円 宿个土産

十三十銭 下女よねへ

計五十式銭

外 八円八十銭 東京迄キ車

右計 十八円三十四銭五厘

東京市所感

一 高等女学校教諭ノ件ニ付梅野高等小学校訓導ヲ軛セタテハ如何

一 二月十六日ノ時事新報ニ官吏ノ俸給ヲ増シテ人員ヲ減スヘシトノ論説ヲ讀ミ市吏員淘汰ノ必要ヲ感ス

○ 一 東京市ニ於テハ汚物掃除ノ車ヲ一人ニテ挽ク 高知市モ同様ナリ 一 学務専任吏二千酌ハ如何

一 山本日本銀行総裁ノ演説中昨年ノ外国貿易輸出入ノ金計四億九千一百五十餘萬圓ニ上リ開港以來未曾有ノ高ナリ 其内輸入ノ輸出

ニ超過スルコトハ千三百三十三萬円餘ノ多キニ達ス 之ヲ前年ニ比較スルトキハ輸入ニ於テ六千六百九十三萬円餘ヲ増加シ輸出ニ於

テ一千七十二萬円ヲ減ス云々

一 塵溜箱ヲ適當ノ場所ニ備置キ之ヲ塵芥ヲ捨ツル事 箱ノ形状ニ最も注意スヘキ事

一 二月廿八日博物館ヲ觀ル 一字金論座像木像ナリ

一 三月二日ノ山陰新聞投書籠欄内ニ戸籍役場受付時間ニ関スル記事アリ注意ヲ要ス

一 各課事ムノ執リ方ヲ精査スルノ要アリ

一 散葉ヲ飲ムトキ之ヲ包ムモノハ「ラムラート」

一 金尾知事実業学校視察ノ結果若松へ徒弟ヲ市費ニテ遣ハシテハ如何トノ照会ヲ受ク 一人一ヶ年三十円ノ由ナリ

三月廿四日 雨天

午後零時三十分東京新橋発□

〔以下、頁破損〕

〔頁破損〕

岸屋〔以下、頁破損〕 発四時十分新庄へ着 同所より歩行シ六時四十分五分板井原へ着 鉄間屋ニ投ス 新庄車夫 山中春吉

廿七日 晴

午前七時板井原出發 正午米子着 零時同所發船 三時半帰宿ス

米子^二淀江^一御來屋^二里^一廿^二下市^一赤崎^二由良^一倉吉^三
〔計算式あり〕

《一九〇一年(明治三四)・鳥取県倉吉町、鳥根県杵築町出張》

三十四年四月廿二日午后四時廿分

小松宮殿下御來松付伯州倉吉追奉迎ノ為メ發ス 六時半米子着米五二投宿

廿二日雨

午前七時廿分米子發 零時三十分赤崎ニ着 昼飯 一時半出發 四時半倉吉へ着シ東伯館ニ休憩ス 五時三十分小松宮殿下御着在セラル

五時四十分御旅館ニ伺候

六 五時過倉吉發 八時由良ニ着 仕立屋ニ投

ス

廿三日曇

午前五時半由良ヲ發ス 正午米子ニ着 米五二投ス 四時半小松宮殿下ヲ奉迎シテ六時半帰松

廿五日

午前七時小松宮殿下御送りノ為メ出發 今市ニテ昼飯 午后二時過杵
築ニテ一泊 翌廿六日六時出發 庄原ヨリ乗船午前十時四十分帰松ス

車夫 坪井卯八

江戸堀北通二丁目 原文助

本郷區臺町卅六番 旭館 福岡祿太郎

本町四丁目三十四番 吉田

津停車場前 松坂屋

《一九〇一年(明治三四)・三重県津市及び大阪市出張》

明治三十四年五月津市へ出張ノ旅費

金六十一円九十五錢

外二

金貳十円 持出

計金八十一円九十五錢

内

金貳円三十錢 洋傘

金壹円 木村返金

差引

金七拾八円六十五錢

外十八十錢ト銅貨十錢余カ)

内

五円 板井原ニテ中島渡

四円六十五錢 キ車賃

津へ着迄入費凡ソ十六円餘

四圓四十式錢 帰り懸キ車

明治三十四年五月十一日出發 関西各市協議会ニ出席ノ為メ津市ニ出

張

同日曇天小雨

午前七時四十分松江發船 十時米子ニ着 腕車ヲ雇ヒ十時半出發 零

時五十分溝口ニ着 住田宗一方ニテ昼飯 一時廿分發 六時半板井原

ニ着 鉄問屋ニ投ス

途中鉄道報告付心付キ

一政府ニ建議其處次期議會ノ事ヲ書キ加フヘキ事

一姫鳥線ノ処政府ニテ一億五千万円ト改正ノ計畫アリシコトヲ書キ加

フヘキ事

十二日晴午後雨

午前五時三十分板井原發 八時半美甘着 同所小憩ス 直ニ出發 十

一時廿分勝山ニ着 きし屋ニテ昼飯 零時廿分發 五時四十分津山ニ

着 山長小林ニテ休憩 六時十五分發ノ瀛車ニ乗り八時五十分岡山ニ着

山陽停車場前山岡林小ニ投ス

十三日晴

午前七時四分岡山發 十一時半神戸ニ着 吉田旅館ニ於テ昼飯 午後

一時四十五分神戸發 六時三十分草津着 魚清樓事園清次郎方ニ投ス

十四日快晴 小曾木善六ノ本姓名六左衛門

午前七時五十分草津發 柘植及龜山ニテ乗替 十一時五分津市ニ着

東町善六方ニ投ス ○高橋並留守へ電報ヲ發ス

津市ノ待遇

松坂屋ニ書記出張 休憩所ヲ設ケ茶ヲ供シ旅館ヲ指定シ旅館迄ノ車

賃マテ示ス 宿ニ投スルヤ本日發刊ノ伊勢新聞ヲ贈ル 旅館ハ八畳
一間ニテ清潔ナラス 座蒲團ハ絹地ナルモ至テ粗ナリ 庭ノ揃木ノ
模様ハ頗ル□、下婢ノ服装至テ粗野ニシテ不潔ノ方ナリ、暫時ニシ
テ座蒲團ヲ取替ヘタリ

此夜市街散步 刀劍商店ニテ刀劍數口ヲ觀ル 十時帰宿

不在中当市長助役訪問セラル

十五日曇天

午前九時會場ニ出席 縣會議事堂扣所ハ三間ニ九間ノ所ニテ休憩中茶
ヲ供ス 會議番号ハ十七番ナリ 十一時四十分閉會帰宿

開會ノ始メ当市長ヨリ挨拶ノ後本縣書記官知事代^{東京}トシテ挨拶アリ

午後三時ヨリ公園ニ当市長ヨリ案内アリ コーヒーヲ供ス 又抹茶ヲ

供ス 園内ヲ逍遙シ五時帰宿ス

十六日朝小雨午後晴

午前八時會場ニ出席 九時前開會 各市共口答問題ヲ減シ午后四時半
各問題ヲ議了シ退散 市役所員ノ案ニテ津市商品陳列所建築地ヲ見

空^寶松院ノ繪画展覽會ヲ見ル 木村武山ノ説明アリ 茶菓ノ饗応ア

リ 五時半帰宿ス

十七日小雨後半晴

八時会場出席 八時半開會 決定ノ件左ニ

一來年会議ノ市ハ丸亀

一井原書記官臨場付挨拶ノ為メ廣島和哥山両市長縣廳ニ出頭ノ事

一來年ヨリ問題ハ必開會前へ提出スヘキ事

九時廿分閉會

九時廿分ヨリ阿漕浦楯干鯛漁ヲ觀ル 同所ニ於テ飯小屋ニテ昼飯 零

時退出 引懸養正尋常小学校參觀 二時前帰宿ス

小学校ニ付テハ別ニ記スル程ノ事ナシト雖モ授業中教室ノ整頓セシ
ハ感服ナリ

午後二時ヨリ大觀亭ニ於テ懇親會アリ 會席左右各四間ニ九間中二間

ニ九間ノ大廣席中央ニ舞臺アリ 九時帰宿

十八日雨

午前七時四十分阿漕發 十時山田ニ着 内宮鳥羽二見ニ行寶田館參觀
二見樓ニ於テ神苑會ノ饗應ヲ受ケ三時過發 四時十五分山田着 外

宮參拜六時發 八時半帰宿

十九日晴

午前八時四十分津發 午後三時廿分^{大坂}大坂着 原文方ニ投ス 四時ヨ

リ山城氏ト散步 中ノ島公園ヨリ心齋橋通ヲ過道頓堀ニ至リ松島ケン

長方ニ於テ料理ヲ食フ 肴四品 酒壺本 壺円五十錢 七時過帰宿

廿日晴

午前八時中橋徳五郎氏ヲ訪ヒ馬潟疏浚ノ事ヲ談シ十時過帰宿 立花某
ノ案内ニテ大坂築港工事ヲ觀四時半帰宿 暫時休シ山本ト共ニ散步

七時帰宿 十時廿分大坂ヲ發ス 山城□替 宿料 築港往復車賃 ス

テーション込全上

廿一日晴

午前三時三十分岡山ニ着 山長ニ休憩朝飯 六時十分岡山發 八時廿
八分津山着 同所ヨリ腕車ニ乘リ零時三十分久世ニ着 漆屋ニ於テ昼

飯 一時同所出發 午前十二時久世ニ着 うるし屋ニテ昼飯 午後一

時出發^{福山} 六時過新庄ニ着 福島屋ニテ宿泊

廿二日曇天

午前第六時出發 十一時五十分溝口ニ着 住田宗一方昼飯 零時三十

分出發 二時半米子着 同三時米子發 五時帰宅

〔計算式あり〕

《一九〇一年（明治三四）・浜田町出張》

三十四年七月五日出發浜田へ出張

四十式円七十八錢

内

五円 今市ニテ小具へ

壹円 江津ニテ全上

巷間四十四錢 河上へ進物

十三錢 車賃取替

卅四年七月五日曇午後雨

午前七時四十五分松江發 十時庄原着 直チニ發車 十一時廿分今市

着 泉屋事内藤龜三郎方ニ於テ昼飯 正午今市發 小田ニテ小憩 午

后七時太田着 安來屋投宿

六日雨

午前六時發 十一時四十分大家へ着 同所ニテ昼飯 午後零時四十分

發 六時郷津二着 同所ニ宿ス 解語花牽乗月客

七日曇午后半晴

午前七時發 十一時過濱田着 新町佐々木正次郎方ニ投宿 一時過兵

營訪問 竹中聯隊長新妻大隊長ニ面會 第一第二中隊長ヲ訪ヒ竹中大

佐新妻少佐ノ宅ヲ訪ヒ那賀郡役所ヲ訪フ 郷田書記官正木中村古川諸

郡長ト歡迎宴會ノ事協議セリ 十四日ニ決定 四時五十分帰宿ス

八日雨

午前六時廿分人力車ヲ雇ヒ海岸歡迎所ニ往キ車ヲ返シ八時頃ヨリ軍隊

順次上陸 最後ニ西山大隊長上陸 一同將校控所ニテ挨拶 直チニ歡迎者整列所ニ至リ定ノ場所ニ整列ス 九時過行軍帰營 此處ヨリ車ヲ雇ヒ西山大隊長ヲ其寓ニ訪問シ十時帰宿ス

九日半晴

午前六時三十分歡迎所ニ至ル 七時ヨリ軍隊上陸 八時半頃マテニ歩

兵悉ク上陸 九時前ヨリ進行帰營付九時半帰宿ス 此日右田古文中島

卓矣岡本俊信内田加藤高橋三軍曹訪ハル 午後一時ヨリ憲兵支部聯隊

區司令部西山大尉水町憲兵大尉岡本俊信山村信壽山本磯兵衛郷田書記

官中島卓矣ヲ訪問ス 黄昏河上甚壽郎正木芳介訪ハル

十日半晴

午前六時半歡迎所ニ至ル 七時ヨリ軍隊上陸 九時前ヨリ行進凱旋帰

營 佐本少佐皆美中尉ヲ訪ヒ九時半帰宿ス 午後四時ヨリ岡本俊信右

田古文氏ヲ訪ヒ市中ヲ散歩シ五時過帰宿 此日水町憲兵大尉訪ハル

十一日雨

午前七時山邨信壽氏來訪 八時半高等女學校ニ參觀 十時前ヨリ監獄

ニ往キ支署長ノ案内ニテ署内巡視 十一時過帰宿ス 午後二時千葉弁

護士來訪 四時齋川少佐樋口大尉ヲ訪問シ五時ヨリ河上氏ノ案内ニテ

掬翠亭ニテ饗応ヲ受ケ十時過帰宿ス 凱旋兵泉豊吉錦織某來ル 酒ヲ

饗ス 十二時過去ル

十二日雨 十時ヨリ半晴

八時頃岡本俊信氏訪ハル 正午ヨリ招魂際ニ臨ミ五時帰宿

十三日

午前七時竹中富川佐本西山諸將校並ニ郡役所河上ヲ訪ヒ九時三十五分

出發 一時十分江津二着 昼飯 午后二時五分發 六時五十分大家着

市原セキ方投宿

十四日雨

午前五時十五分大家ヲ發ス 零時三十分田義着 昼飯 一時四十分田義ヲ發ス 六時四十分直江ニ着 川島屋ニ投ス

十五日晴

午前八時發十一時帰宅

〇 《一九〇二年(明治三四)・浜田町出張》

明治三十四年九月十二日濱田出張ニ関スル記事

一金式十九円六十四銭 旅費十日分

外ニ

四円別持出 外式円留守へ

九月十二日晴

午前六時松江發船 八時半庄原着 同所ヨリ車ヲ備 零時十五分小田ニ着 錦織栄三郎方ニテ昼飯 午后一時小田發 六時二十分大森着

高橋一作方ニ投ス

十三日晴 十時前より曇小雨

午前六時四十分大森ヲ發ス 午后一時十分浅利へ着 浅野庄之助方ニテ昼飯 二時發七時濱田着 新町佐々木方ニ投ス

十四日晴

午前七時四十分竹中聯隊長ヲ其寓ニ訪 不在 河上氏ヲ訪フ 面會

新聞株入ノ事ヲ協議ス 結果左ノ如シ

一株入ハ二株 若シ来年ノ撰拳ニ起ツコト、スレハ今一二株ハ引受クヘシ

一俵延太郎氏へ株入ノ依頼書ヲ送り呉レトノコトナリ

一松本正友氏ハ株入ハスヘキモ多クハ入ラス 支部發會式ニハ必ス

出松スヘキニ付其節確定スヘシト

八時半一旦帰宿 更ニ佐本新妻西山富川ノ四少佐樋口大尉岡軍医ヲ訪ヒ郡役所聯隊司令部憲兵□部ヲ訪ヒ十時帰宿ス 十時半根岸八束郡長訪ハル 午后一時中村飯石郡訪ハル 同氏同道根岸八束郡長ヲ誘ヒ金尾知事ヲ訪ヒ二時半帰宿ス 五時ヨリ竹中聯隊長ノ招ニ應シ掬翠亭ノ宴会ニ臨ミ八時半帰宿ス 山本能義郡長同宿トナル

十五日晴

午前八時招魂祭場ニ臨時了テ宴会場ニ臨ミ午后一時過帰宿 午后五時竹中聯隊長方□□訪前夕ノ饗応ヲ謝ス 六時帰宿 樋口大尉栗田辰一郎渡邊善五郎等来ル 酒ヲ饗ス 水町大尉亦来ル 七時皆去ル 七時半根岸井川中村三郡長来ル 中村井川ト共ニ市中ヲ散歩シ八時半帰宿 十六日晴

午前八時招魂祭場ニ臨ミ歩兵演習ヲ觀十一時半帰宿ス 十七日

午前七時伊津野司令官ヲ訪ヒ竹中聯隊長右田古文ヲ訪ヒ九時帰宿 十時ヨリ紀念碑起工式ニ臨ム

恒松ヨリ島根縣水産會横井へ傳言 十月初旬五六日過ニ開會スレバ出松スヘシ云々

十一時半帰宿

金六円同三円 三谷ニ渡ス

外 四円出懸ケ渡ス

計十三円

午後二時濱田出發 五時半

〔頁欠落〕

夜光玉 薄黄

玉揃 白 福原男

長義

高砂 白

井手玉川 黄

□□
□□
□□

楼鏡 桃色

戸隠 赤

〔明治三四年 手帳 第六冊〕

- ・タテ 一一・五cm
- ・ヨコ 六・五cm
- ・本文 八一ページ

岡田刑法講義

獨乙リスト刑法論

《一九〇三年(明治三六)・大阪市出張》

明治三十六年四月第五回内国博覽會視察ノ為メ登坂

一大坂宿所 島根縣事務所付近 好靜館

一金五十六圓六十五錢 旅費

外金(式力)圓五拾錢 別途

(挟み込み)

普通小包郵便物受取證							
差出人 氏名	受取人 氏名	月日	引番 号	重量	郵便料	配達 局名	受任 印
麴町五丁目 柳川平助	福岡世徳	十月四日	三七四号	一五〇〇匁	金五拾錢	松江局	(印) 轟
要 摘				印 附 日			
				(受付印) 三月十六日 東京麴町四丁目 郵便局 受取所			

注 此の受取證は小包郵便物の選附を受るとき又は損害賠償の請求をなすとき等に於て必要なるに付大切に保存すべし

○高橋助役ヨリ依頼条件

- 一 賣店管理ハ行届キ居ル筈ナルカ果シテ如何
- 一 二階裝飾ハ華美ニ過クルトカ六十圓ノ窓懸ケハ建物不相應ノ物ヲ用ヒタルトカノ評アリ如何
- 一 委託物ノ販賣并ニ陳列場等ハ誰レモ満足ヲ与フル方法ニナリ居ルヤ否ヤ

一 富田雇ノ事

○高橋捨藏宿料

南區難波(俗ニ難波ノ御蔵ト云)

大坂專賣支局

普通小包郵便物受取證							
差出人 氏名	受取人 氏名	月日	引番 号	重量	郵便料	配達 局名	受任 印
麴町五丁目 柳川平助	福岡世徳	十月四日	三七五号	八〇〇匁	金參拾錢	松江局	(印) 轟
要 摘				印 附 日			
				(受付印) 三月十六日 東京麴町四丁目 郵便局 受取所			

注 此の受取證は小包郵便物の選附を受るとき又は損害賠償の請求をなすとき等に於て必要なるに付大切に保存すべし

四月六日晴 月曜

午前八時半松江發 十一時境着船 香川ニテ昼飯

0.245	松境間船賃
0.030	船中及棧橋
4.000	境敦間船賃
0.180	端舟賃
0.250	境岸飯
0.600	船中
0.100	ツルガ上陸舟賃

午後四時十分本船山城丸ニ乗船 同四時五十分出帆ス

七日晴 火曜

午前六時十分敦賀着港 六時五十分上陸 具足屋ニテ小憩喫飯

0.300	ツルガ飯代
0.330	同茶代
0.070	下女心付
0.190	人力車 <small>船日12 キ口57</small>
2.720	汽車賃 大阪迄

午前十一時五分敦賀發 午後五時南區生玉寺町好静館ニ投宿

0.200	電報
0.240	人力車
合計	9.615

松平直平様 中島自由館

同八日曇天 水曜

午前九時ヨリ小森ノ案内ニテ博覧会場各館ヲ概觀シ零時島根縣賣店ニ
 小憩中向坂山本堀小川三島ト會シ共ニ復ヒ會場ニ入り昼飯ヲ喫シ人類
 館ヲ觀ル 印度人 阿弗利加人 北海道アイヌ等アリ

午後三時帰宿

0.200	昼飯
0.100	人類館見料
0.070	人力車

午後八時ヨリ博覧会場ニ至ル 水曜日ナルヲ以テ各館ノ屋根若クハ窓
 ニ電燈ヲ點シ殊ニ正門ニハ電燈多ク第五回内國勸業博覽會ノ文字電燈
 ニテ點出シ頗ル壯觀ナリシ
 同九日雨天 木曜日

午前八時島根縣事務所ヲ訪問シ博覧会場ニ至リ工業館ヲ觀場内ニ於テ
 昼食ヲ喫シ植物園ヲ觀農業水産兩館ヲ觀引懸ケ賣店ニ往キ四時半帰宿
 ス 昼飯岸松館

十日曇天

0.600	昼飯弁当代
-------	-------

同日曇天 金曜日

午前十時半ヨリ博覧会場觀覽

○土佐水産珊瑚 五千圓

○美術館

若狭瑪瑙鴛鴦香合 外売品アリ

画 平田 小村権三郎

玉章 鷄圖 一幅横

雅邦 瀟湘八景圖 八幅

玉章屏風 きり志ま欸

一双 躑躅花山

水邊水草

綴錦
一〇〇織出佛画 七千數百圓

○林業別館本縣ノ陳列ハ木材、木炭、竹、鉄等アリ
場内ニテ昼飯 二時半帰宿ス ○午前七時ヨリ博覽會場前ニ散歩シ買
物ヲ為シ八時十五分帰宿ス

3,000	襪子
0,500	笄

同十一日雨天午后半晴 土曜日
午前十時宿車ニテ賣店ニ往キ賣店取締ノ事

○東京浅草 赤井景秋

瑪瑙出品 式百圓ノ物アリ

ニ付小森ニ問フ 小森ノ談左ノ如シ

一金錢上ノ事ハ総テ自分ニ於テ取扱ヒ毎日賣上ケ金ヲ計算シテ加島
銀行ニ預ケ各自入用ノ時ニ銀行ヨリ引出シテ渡スヲ以テ不取締ノ
事ナシ

一日々ノ賣上ケハ長岡第一高麗第二川島第三武田第四原第五ナリ

一繁沢帰松以来長岡川島等ノ留守ヨリ申越候事アリ 川上大ニ不平
ヲ鳴ラシ居レリ 繁沢不評判 同人帰松ノ后賣店ハ却テ折合宜シ
高麗モ此度ハ格別跋扈セス時々無理ヲ言フモ川上長岡等之ヲ防キ
都合大ニ宜シ

一富田ノ事ハ全ク或ル日本縣事務所ニ於テ酒ヲ飲ミタル際富田カ萬
事下働キヲ為セシニ依リ賄人カ富田宛ニ注文ヲ出シタルト今一ツ
ハ繁沢帰松ニ付送別會ヲ開タルトキ富田カ一時間計後レテ帰店シ
タルヲ繁沢カ事ヲ棒大ニ話シタルナラントノ事テ富田ノ事別ニ不

都合ノ事ハ無シトノ事ナリ

○ 賣店優待室ハ三間半ニ二間半 座ニハ絨タシヲ敷天井
ハ張り天井窓懸ケ等奇麗ナリ 丸卓子ニ長卓一ヲ置各
卓ニ椅子四个宛ヲ備別ニ長椅子四个ヲ備フ 卓子掛ケ
等モ奇麗ナリ 賣店ノ模様ハ左ノ如シ

正午ヨリ博覽會場ニ入ル

一東京浅草赤井景秋ヨリ瑪瑙ノ金魚、觀音像、象等ノ置物ヲ出品セ
リ觀音像式百圓トアリ 皆赤瑪瑙ナリ尤臺ニ青瑪瑙ヲ用ヒシモノ
アリ

一山口縣萩陶器ハ何レモ雅致アルモノニテ画等アルモノナシ只一品
一輪指ニ模様ノ付キタルモノアリ
一東京府出品ノ日蓮佛壇五千円ナリ

午后三時帰宿ス

0.120 人力車 内二錢ハ出懸ケ八錢ノ不足

同十二日晴 日曜日

川島	高麗	武田	原
器類			

イタク	依託品	漆器	長岡
器類	襪子	漆器	漆器

午前九時松平子爵ヲ自由亭ニ訪フ 不在 帰途金甌尋常小学校ニ往キ
補習学校ノ事ヲ問ヒ博覽會場ニ往ク

一 農業館内各府縣繭ノ在ラサルモノナシ

只大坂府真綿アリ 繭ハ二箱ノミ 沖繩ニハ全ク無シ

一 徳島香川等ノ縣水産館ニ鮑海老ヲ見ル

昼食西洋料理ヲ喫シ各府縣賣店ヲ觀覽シ午后三時帰ル

0.520	人力車
0.350	昼食

午後八時ヨリ博覽會前へ散歩 十時帰宿ス

0.600	鹽一袋
-------	-----

同十三日晴 月曜日

午前九時向坂氏出發ノ後賣店事務所ニ往キ明十四日堺行ヲ小森ト約シ

大坂坂^(大坂)泉布觀水道ノ水源地高津宮天王寺ヲ歴觀シ午后三時半帰宿ス

0.920	人力車
0.200	諸所見料
2.750	買物

午后七時実業補習学校ニ視察ス

一 創立

一 学年數

一 生徒數

一 年々生徒増減

一 往復取締

一 生徒父兄職業別

九時帰宿

1.080	繭一斗
-------	-----

同十四日曇り 火曜日

午前九時ヨリ小森ト共堺ニ行き水族館及妙国寺蘇鉄、宝物ヲ觀濱料理
店ニテ昼飯 一時半ノ瀛車ニテ二時大坂ニ帰ル

1.500	堺居飯
0.720	キ車及人力

二時ヨリ博覽會場ニ入ル

○参考館ノ陳列ハ外国製品ニテ諸器械、染料其他製作品支那朝鮮ニテ
ハ陶器獸皮、鳥類剥製等種々ノ物アリ 五時帰宿ス

0.500	樂沢漆器口約金小口
-------	-----------

昨夜井川縣属來訪

山口務氏審査官トシテ來坂 織物審査助手ノ事ニ付内談アリ 松本
ヲ紹介セシモ松本氏上坂セス遺憾ナリトノ事

同十五日雨 水曜日

3.660	宿拂
4.000	茶代並下女
0.160	新聞紙代

午前七時前原源藏氏訪ハル 八時島根縣事務所へ帰国挨拶ニ往ク 午

前十時大坂發

0.260	停車場迄人力車
2.400	岡山迄キ車

四時四十分岡山着 木村旅店ニ投ス

0.550	油 (ペンツケ)
0.560	ユリカケ
0.250	□□
0.800	宿料
0.700	茶代並下女心付

午前十時津山着 同十一時五十分坪井着昼飯

0.950	津山辺キ車
0.060	車中
0.396	津山ヨリ坪井迄人力
0.200	坪井昼飯
0.100	坪井茶代

零時廿分坪井發 六時廿分美甘ニ着

0.600	途中茶代
-------	------

十錢 勝山ニテ

三十錢美甘ニテ 車夫ニ渡ス

十錢江尾ニテ

0.400	宿料
0.200	茶代

同十七日曇 金曜日

午前六時美甘發

0.250	峠辺馬賃
-------	------

十時廿分江尾ニ着 同所ニ於テ昼飯ヲ喫ス

0.240	昼飯並卵代
0.100	茶代

十一時江尾ヲ發ス 午後二時半米子ニ着 米五ニ投ス

2.300	人力車 坪井ヨリ米子迄
0.500	宿料
0.500	茶代 下女

同十八日 土曜日

午前九時廿分米子發

博覽會ニ関スル事

(脱力)

- 1 一全体ノ規模豫想ヨリ小ナリ事
- 2 一縮緬ハ上州、滋賀、富山、山口、諸縣ニアリ
- 3 一羽二重ハ福井富山石川等
- 4 一漆器ハ各府縣無キハナシ 就中静岡、福島、名古屋^{三軒} 石川東京大坂京都等最多シ 本縣ノ漆器ハ多ニ同様ノモノナキヲ以テ将来望ミアル如シ
- 5 一銅器ハ富山縣最タリ 名古屋三重等ニモアリ 東京大坂京都ニモアリ 然レトモ富山ノ外ハ多カラス ○度々審査官来リ遠所ノ分ヲ疑フモノ、如シ
- 6 一本縣ノ陳列場所ハ総テ側面殊ニ肝腎ナル製作工業場ノ位置表面ニ瑪瑙工細アルノミニテ其他ハ宜シカラス
- 7 一陶器ハ他ニ同程ノ物無キヲ以テ将来望ミアル歎 山口萩焼ノ事
- 8 一陳列位置ノ宜シカラサルハ専ラ生産額ノ多カラサルニ因ルトノ事

ナリ

美術館小別館、本縣ノ出品多シ

一 教育館ハ本縣ノ物觀ルニ足ラス十露盤写真諸表アルノミ 位置尤モ宜シカラシテ淡□ナリ

2 一 各府縣ノ出品□術ニ就テハ頗ル進歩セシニ相違ナシ 前回トノ比較ハ審査報告ノ上明瞭ナルニ至ルベシ

一 農業館ハ本縣陳列位置ハ敢テ他ニ劣ラス 門構ノ両側ニ繭ト米トヲ陳列セシ如キ就中繭ノ出品ノ多キ事他府ニ最タル如キハ養蚕地タルニ恥チサルノ感アリ 繭ノ出品ハ各府縣共ニ有リ 大坂ニ至テハ二箱ノミ 沖繩ノミハ出品ナシ 猶一般裝飾ニ力ヲ盡セシ如シ 和歌山ノ蜜柑山奈良ノ杵山ノ如キ觀ルヘキモノアリ

林

一 農産館本縣陳列ノ位置ハ宜シカラサルニ非サレトモ出品物少數ナルヲ以テ極メテ狹隘物品ハ椎茸 杵材 鎌農具アレトモ觀ルニ足ラス□林業別館ニモ木材木炭竹、鋏等アリ 是亦極メテ少數

本館ニ於テ奈良縣ノ杵材ノ如キ人目ヲ引クモノ節ナシノ長材アリ

一 水産館本館ニモ本縣陳列ノ位置ハ宜シ 陳列品モ鯛ハ少數アレトモ其他全体寂寥ノ感アリ 井川縣屬ノ談ニ依レハ出品ノ出願者多カリシ為メ場所モ相當ノ廣サアリシニ開場五七日前ニ至リ取消願ヲ出シタルニ付不都合ヲ生シタリト 右ノ結果ニテヤテン草ノ箱ノ如キ極メテ小形ニテ觀ニ足ラス鯖節殊ニ見苦シ

本館内ニ於テハ高知ノ珊瑚尤モ觀ルヘキモノ價五千圓ノモノアリ 陳列場ノ前人常ニ群ル 又宮崎縣ノ鰺釣場ノ如キ山口縣ノ捕鯨場ノ如キハ模形ヲ陳列セリ

一 通信館ハ鐵道作業局、山陽鐵道會出品ノ瀛車ヲ始メ瀛船ノ模形其

他大八車人力車ニ至ルマテ陸海運送ニ関スル諸器具郵便脚夫ノ風等甚ダ多シ 猶鐵道作業局ノ出品ニ係ル瀛車ノ通過スル處ノ風景ノ写真ノ如キハ請求ニ依リ係員説明ヲ為セリ

一 機械館ハ中央ニ東京電燈會社ノ原動發電アリ器械ヲ運轉 燐寸ノ製造、御法川ノ製糸、製茶、印刷、機織等常ニ運轉ス 其他器械類多本館ハ器械ノ運轉スル故ニヤ人常多シ

一 參考館ノ陳列品ハ外国製品ニシテ諸器械 ベン ハンカチーフ染糸等其製作品支那朝鮮ノ如キ陶器獸皮鳥ノ剥製等アリ

一 加奈陀館加奈陀ノ農産物ヲ陳列セリ 果實ノ瓶詰等多クアリタリ

一 ホラン館ハ外国製器械類ヲ陳列ス

一 動物館ハ各府縣出品ノ馬ニシテ中ニハ價五千圓ノモノアリ

一 一家禽室ハ未開 目下審査室ニ充ツ

美

一 藝術館ニハ園山与一ノ牡丹ノ木彫ノ額、荒川嶺雲米原雲海安達某ノ木彫塩津ノ香爐小村某ノ画等本縣ニ関スルモノナリ 外ニ鹿足ノ人ノ画アリ

一 肖像館ハ本縣内田某ノ造意ニテ出品人ノ肖像ヲ掲クル考ナリシ由ナルモ出品少ナク目的ヲ達スル能ハス 依テ場外ニ一館ヲ建テ陳列スト云フ

一 体育館ハ野天ニ種々ノ体操器械ヲ据付ケアリ 又建物内ニハ參考トシテ武器ヲ陳列ス

一 アントルス器械館米國製ノ器械即チ馬車人力車自轉車時計等種々アリ

美術館補

園山与市額 牡丹ニ蝶埋メ木

荒川 童子太鼓ニ手撞キ空氣球ヲ持つ

米原 童子林檎ヲ^掴ム右手ニテ右胸ニアテ持つ

安達 農夫俵ノ繩ヲ縮ム繩ノ端ヲ猫児カ戯レル

都ぎぬ十二個入五十錢送料式錢 東京神田五軒町大通寶順堂

戦争ト国際公法 三十錢郵税十錢

東京小石川区下富坂町七番地 實業協会

大根九錢 郵税二錢 豆六錢郵税二錢

〔計算式あり〕

備忘記

一 竹細工之事

一 小学校屋外体操場公開之事

一 塩津親次博覽會視察報告ニ依レハ本市ノ金工界ヲ活動セシムルニハ

資本家ニ於テ資ヲ投シテ之ヲ製作セシメ縣外ニ販路ヲ求ムル事名案

ナリ

一 教育會各郡ノ事業 簸川ハ頼リニ基金ヲ募集シ 大原郡圖書館設置

ノ計画アリ

實業ノ發達ヲ圖ルモ亦愛国心ナリ

小兒ノ行商今ハ無シ 一 補習學校ニ工科

一 市教育 形式云々校長談話

一 市統計表尔後詳細ニスヘキ由

一 雲州十露盤ヲ松江ニ集メ猶松江ニ於テ製造セシメ之ヲ坂地ニ登スコ

トト為ス

一 養蚕家ヲ集メ協議ノ事

一 松江製造品工業将来増殖ノ見込ヲ立ル事

一 税金記帳之事木村書記ニ問フ事

船十四尺六寸

長廿五十五尺

深廿四尺六寸 吃水二尺六寸

十 水準標ヨリ凡ソ八百間疏浚

十 土捨場ノ現今ノ處ヨリ百七十八間並南百三十四間

十 深廿十五尺

十 三十八年度ニ於テ完成

一 浚渫船之事

一 船体

長廿五十五尺 幅最廣十四尺六寸 深廿四尺六寸 吃水二尺六寸

右本年八月満日マテニ回航ノ契約廿六年

一 事業

馬瀉水準標ヨリ東へ八百間幅六十間之所深サ十五尺ニ疏浚

埋立ハ既成埋立ノ所ヨリ東へ百七十八間

右廿六年九月ヨリ着手 廿八年度ニ於テ完成ノ見込

弁天町百七十六原田

小石川大塚窪町 磯貝郡蔵

壹圓四十四錢百五十七号ヨリ百八十号マテ廿四部

六十円 交際費
百三十四円七十五銭
十五円為替 旅費

外三十六銭有合

内

一七圓四十四銭 真綿四百匁

一五圓 小遣へ渡

一四圓五十銭 別途渡

一六十五銭 郵券

一六銭 半紙

一貳拾五銭 米子込船賃

四銭 カフス付

一貳拾五銭 米子込船賃

《一九〇三年（明治三六）・東京市出張》

九月十七日晴 木曜日

午前七時半過松江浦丸ニテ松江ヲ發ス 船尾室余ノ外乗客ナシ 十時

米子着 米五ニテ暫時休

一七銭 船中並米五茶代

十時十分米子發 十二時溝口着 住田ニテ昼飯

〇一三十銭 米子ヨリ溝口マテ人力車賃

一十五銭 溝口昼飯代

一金五銭 茶代

一時前溝口發 五時伯作界ニテ驟雨ニ逢フ 次刻マテ歇ム 六時新庄
二着 福島屋ニ投ス

〇一四十銭 溝口ヨリ根雨マテ車賃

一四十銭 根雨ヨリ峠迄馬並下り坂後料

一九銭 途中茶代

50 一十銭 あんま

一五十銭 新庄宿料

一貳十五銭 茶代

同十八日曇 正午ヨリ雨 金曜日

午前五時四十分新庄發 八時二十分勝山着 小憩

一四十 一木十銭 車賃 根雨勝山間

一五銭 茶代

十一時半坪井着 昼飯

一貳拾五銭 飯代

一五銭 茶代

一七十銭 勝山ヨリ津山迄車賃

十二時半坪井發 一時津山着

一二十銭 津山茶代

一六十三銭 津山ヨリ岡山

一五銭 赤帽

二時半津山發 四時半岡山着 木村旅店ニ投ス

一八銭 車賃並赤帽

一壹圓 宿料

一四十銭 宿並女中へ心付

十

同十九日曇り 土曜日

午前七時廿七分岡山發 十一時三十分神戸着 吉田旅店ニテ昼飯

一五圓參拾參錢 岡山ヨリ東京マテ

一四十八錢 神戸昼飯

一貳拾錢 茶代

一十錢 下女へ

一 赤帽

午後一時廿五分神戸發

一五十七錢 キ車中入用

一貳拾五錢 相模屋マテ車

計十三圓十錢

同二十日雨 日曜日

午前七時五十五分新橋着 人力車ヲ傭ヒ高橋氏ヲ旭館ニ訪ヒ十八日午後六時出發相模

相模屋ニ投ス

十卷圓 相模屋へ

新町三丁目三十七番桜井

米 七時

ゼ 七時

子 十一時廿分

ゴ 〇時三十分

〃 一時三十分

發 〃 三時

〃 四時

画家 石橋庫三郎

十月六日晴 火曜日

零時三十分新橋發

十月七日半晴 水曜日

午前八時半神戸ニ着 吉田旅店ニテ小憩

一五円三十三錢 東京ヨリ岡山マテ

一三十三錢 神戸着マテ入用

一三十錢 神戸茶代

一五錢 送り切付

午前十時 分神戸發 午後一時二十分岡山着 二時岡山發 四時津山

着直チニ津山ヲ發シ五時四十分坪井ニ着 萬屋ニ投ス

一金六十三錢 岡山津山間キ車

一金十錢 車中入用

〇一金三十三錢 津山ヨリ坪井迄人力

一三十五錢 宿料

一三十五錢 茶代

一四錢 卵

一十二錢 あんま

同八日雨 水曜日

午前六時二十分坪井發 十一時半美甘着 昼飯

〇一三十七錢 坪井久世間人力

△一二二十五錢 勝山美甘間鼻引

〇一六十八錢五り 久世美甘間人力

一十五錢 昼

一十錢 茶代

正午美甘發五時半溝口へ着 住田ニ投ス

△二十五銭

鼻馬

一十五銭

途中茶代

○一七十五銭六り

美甘根雨人力

○一四十七銭

根雨溝口間人力

一四十五銭

溝口宿料

一代拾銭

茶代

○一貳拾七銭

溝口米子間人力

一米子休憩茶代

同九日半晴 金曜日

午前六時溝口發 七時五十分米子着 船場ニテ暫時休憩

一十銭

米子茶代

〔以下、ページ欠落〕

Works of Fukuoka Tsukinori (6) : the first Mayor of Matsue City

Research Project on Works of Fukuoka Tsukinori

[Abstract]

Fukuoka Tsukinori(1848-1927), the first Mayor of Matsue City, made efforts to promote the development of Matsue during his 22 years term of office(1889-1911). He wrote such official affairs in his pocketbooks. In these documents we can perceive the measures for the promotion of Matsue, his activity at the time of abolition and amalgamation of prefectures and his inspection of the Fifth National Industrial Exhibition 1903.

Keywords : Fukuoka Tsukinori, the first Mayor of Matsue City,
measures for the promotion of Matsue, abolition and amalgamation of prefectures,
the Fifth National Industrial Exhibition 1903